

うみなかビジョン2030の実現に向けた 今後の計画

国営海の中道海浜公園事務所

うみなかビジョン2030の実現に向けた今後の計画

○ビジョンで掲げた将来像を2030年頃の実現できるよう、今後計画的な整備・管理を実施。
○具体的には、以下の5つのエリア間を円滑に移動できるよう、公園全体の将来的な交通ネットワークを見据えた整備を推進するとともに、各エリアをそれぞれの特性に応じた楽しみ方ができる場所へと差別化していく取組が必要。



今以上に魅力的な遊びの場



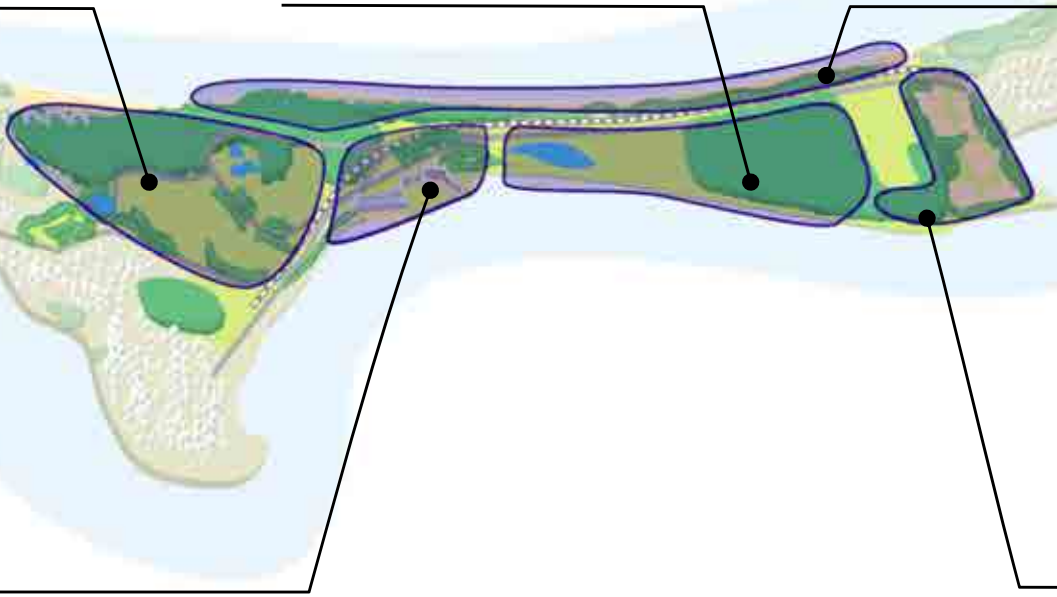
大人も楽しめる、学べる場



白砂青松を継承する自然との共生の場



快適に過ごせる癒やしの場

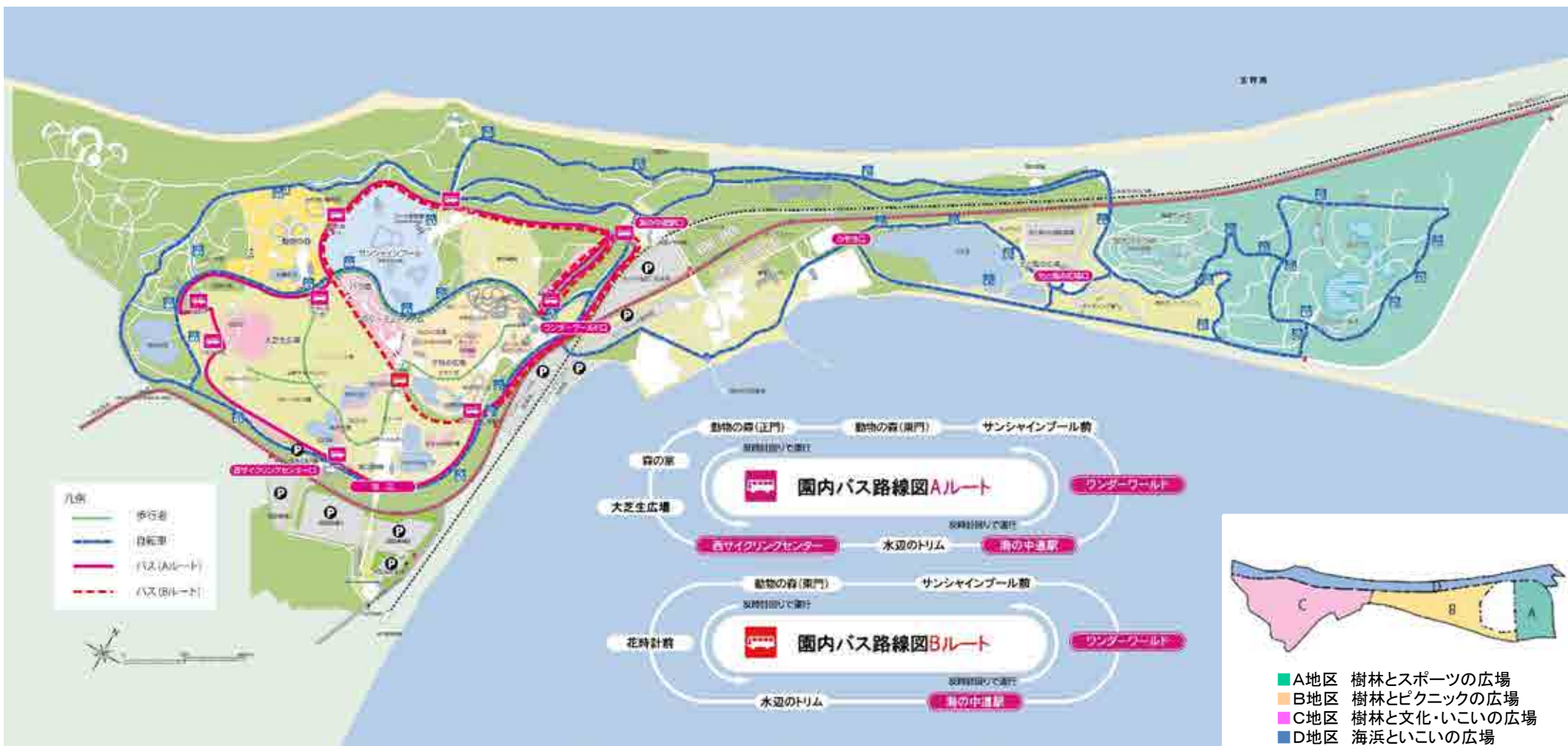


健康的なライフスタイルを支える場

1.公園全体の交通ネットワークの方向性

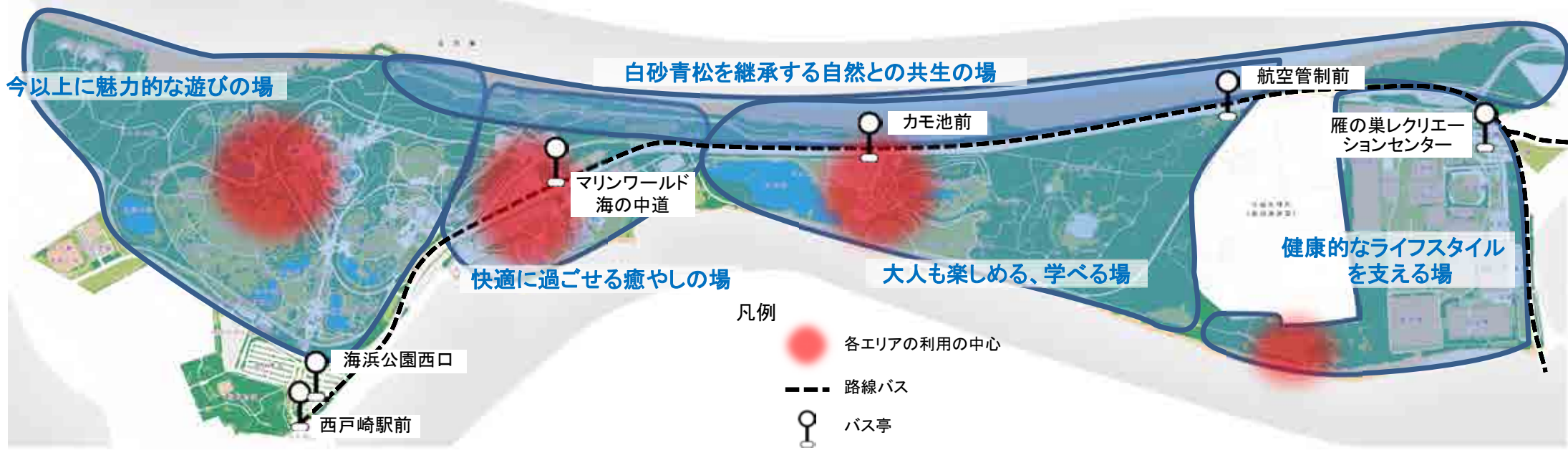
園内交通の現状

- 現在の園内の移動手段は、徒歩、自転車、園内バスとなっている。
- 多くの方が各ゲートから徒歩で移動し、園内を楽しんでいる。
- 自転車は、サイクリングロードが充実しているため概ねすべての場所にアクセスでき、園内の主要な移動手段となっている。
- 園内バスはC地区を周回するルートのみ。



将来的な公園全体の交通ネットワークの考え方

- 公園全体を国営公園として整備・供用した上で、利用者が円滑に移動し、それぞれの場所を楽しめる環境を提供するため、**将来的には、各エリアの利用の中心となる場所等を園内バスで結び、誰でも各エリア間を移動できることを目指す。**
 ※東西に長い玄界灘海浜部エリアへは他の4エリアからそれぞれアクセスすることを想定
- 園内バス以外にも、公園沿いに走る**県道の路線バスもエリア間移動手段の一つとして位置づけ**、バス停へのアクセス性の向上、利用者への周知等により活用を促す。
- 自転車での円滑な移動を支援するため、**サイクリングロードを充実**させる。
- 園内交通をより充実させるため、**新たな移動手段として電動キックボード等のモビリティの活用も検討**し、サイクルポートの設置やサイクリングロードの拡幅等の検討を進める。



■ 将来の園内移動の充実イメージ

	＜園内バス＞	＜路線バス＞	＜自転車＞	＜電動キックボード等＞
現状	園内の一部の周回	園内移動としての利用なし	園内全域の移動	園内運用なし
将来	各エリア間を結ぶ移動手段	各エリア間を結ぶ移動手段 (園内バスを補完)	園内全域の移動	園内全域の移動

短期的な対応方針：①園内バスのルート再編、路線バスの活用促進

- 現在の園内バスは、園内の一部を周回するルートとなっているが、運行間隔が長くなる(1時間に1本)、乗降者がほぼいないバス停もあるなどの課題がある。
- このため、将来的なバスルートも見据えた園内バスの運行ルートの試行等により、乗降者数が多いバス停に絞り込んだ効率的なルート、適切な運行間隔等の検討を行い、その結果を踏まえたバス停、バスルートの再整備等を実施する。
- あわせて、今年度末からPark-PFI事業が運営開始されるB地区とC地区を結ぶ園内バスルートについても検討中。
- C地区⇄B地区間の移動は平日・休日ともに一定の便がある路線バスの活用も促す。

試行中のC地区内運行ルート

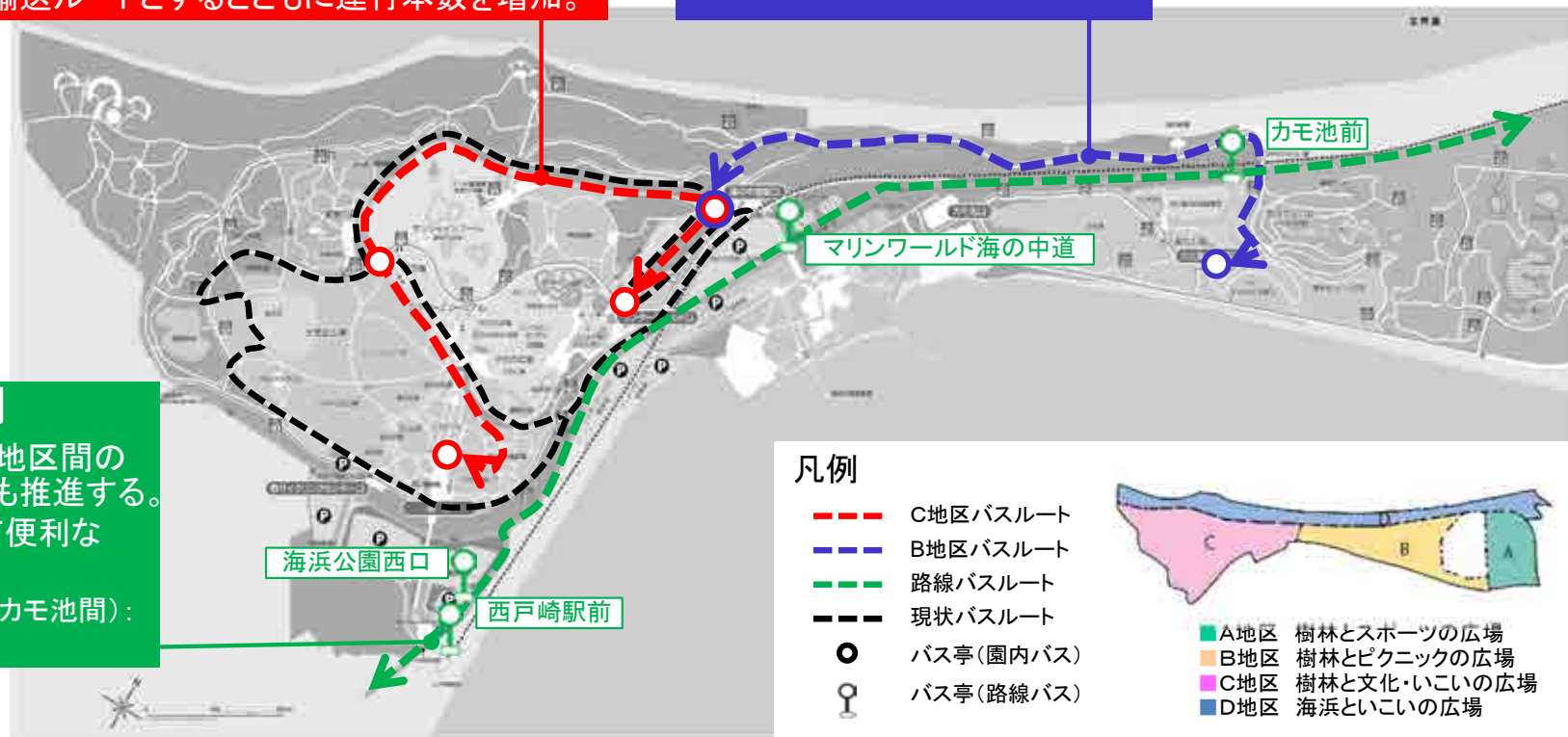
乗降者数が多い場所(動物の森、大芝生広場、フラワーミュージアム・バラ園が接する交差点部)と入口(西口、海の中道駅口、ワンダーワールド口)を結ぶピストン輸送ルートとするとともに運行本数を増加。

C地区⇄B地区のルート

海の中道駅口⇄光と風の広場口を結ぶルートが必要

公園外の路線バスの活用

公園外の路線バス情報を周知し、地区間の移動手段としても路線バスの活用も推進する。
(将来的には、公園利用者にとって便利なバス停位置への変更なども協議)
※路線バス運行本数(海浜公園西口～カモ池間)：
19本/日(平日)25本/日(休日)



短期的な対応方針：②サイクリングコースの改修、電動キックボードの試行

- サイクリングコースを、**内周・外周・海辺の3つに区分して走行・管理できるように計画的に改修し**、利用者にとって目的地までのルートが分かりやすく、管理者にとって管理しやすく再整備する。
- 電動キックボードについては、自転車と同じようにサイクリングコースを走行できる実証実験を実施中**であり、その結果等をもとに今後の運用方法や整備内容等の検討を行う。

【現状】



サイクリングコースの浸水状況 (R2.7)

【課題】

- ・自分がどの場所を走っているのか、どの道を行けば目的地に行けるのかが分かりづらい
- ・浸水した場所に応じてその都度通行止め等を判断

【改修案】



【改修後のコース凡例イメージ】

- 内周コース: 施設間移動を目的とする方用
- 外周コース: サイクリング自体を目的とする方用
- 海辺コース: 海辺の景観を楽しむ、B⇄C地区間の移動を目的とする方用

短期的な対応方針：③安全・快適な歩行者空間の確保

- サイクリング内周コースの内側は、安全な歩行者空間としてユニバーサルデザインによる整備を強化し、歩行者、ベビーカー利用者、車いす利用者など誰もが安全・快適に移動し、楽しめる場所とする。
- そのため、老朽化した施設の更新のタイミングにあわせ、施設の長寿命化、集約再編も進めつつ、園路改修、ユニバーサルデザイントイレ等の充実を図る。

外周コース

内周コース

ユニバーサルデザイントイレの設置
・老朽化・バリアフリー未対応・視認しづらいトイレを統合して新たに設置

視認しづらい現状のトイレ
(スカイドルフィン近傍トイレ)

ユニバーサルデザイン遊具の設置
・設置から20年が経過し老朽化したスカイドルフィンの後継遊具

インクルーシブカフェへの改修
・既存の大芝生広場レストハウスを誰もが利用しやすいカフェへ改修予定(管理センター)

整備イメージ

改修イメージ

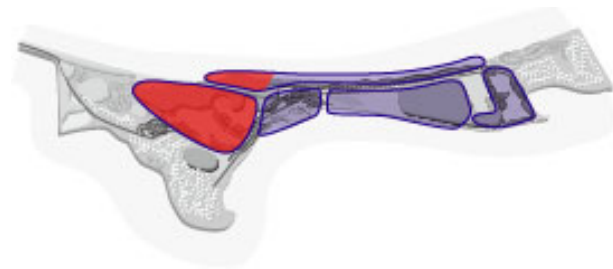
2.各エリアごとの将来像実現に向けた取り組み

①現在の公園利用の中心エリア(C・D地区)

C地区の魅力向上のための再整備に向けた設計、改修等を実施。

(R3年度の主な取組内容)

- サイクリングコースの改修に向けた園路、サインの設計
- 園内交通の見直し検討
- 動物の森、サンシャインプール周辺の再整備の検討
- 遊具改修



■サイクリングコースの改修

健康増進のためのサイクリングを楽しんでいる

サイクリングコースの改修に向けた設計を実施中

■学びのメニューの充実

大人も公園で学んでいる

企業向け利用促進チラシを作成

■新たなレストハウスの整備

暑い日、寒い日も適宜休憩しながら様々な場所を楽しんでいる

レストハウスを含む、施設の集約再編に向けた計画を検討中

■地域と公園を周遊するイベントの充実

公園と地域を両方楽しめるサイクルガイドツアーを楽しんでいる

■遊具のリニューアル

魅力的な大型遊具の更新・分散等により密を避けながら遊んでいる

ちびっ子広場の遊具を本年度更新中



■プールを使った健康づくりの推進

プールでの水中エクササイズを楽しんでいる

■新たなモビリティの導入

広い公園をスムーズに、楽しく移動できている

パーソナルモビリティ活用の実証実験を実施

■園内交通の見直し

公園入口からすぐに目的地に近い場所に到達している

施設の集約再編、園内交通の見直しに向けた計画を整理中

着手済の取組

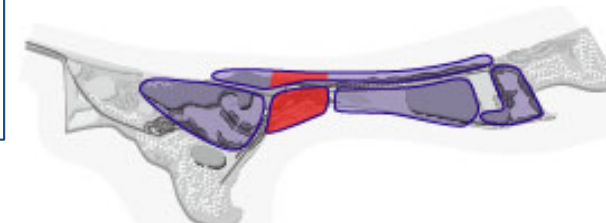
今後着手予定

② 鉄道・船等の公共交通利用者の玄関口(C・D地区)

海の中道駅口周辺の再整備に向けた設計を実施。

(R3年度の主な取組内容)

● 海の中道駅口ゲートの改修、周辺再整備に向けた検討、設計(次頁以降参照)



■ 自然体験活動の充実

貝殻採取やビーチクリーンアップ等の自然体験活動を楽しんでいる

環境局との連携によるラブアースクリーン活動やSDGs取組の推進

■ フォトジェニックな景観の創出

カップルや友人同士で訪れる来園者が増え、楽しんでいる

海の中道駅口のリニューアルにあわせた花修景の強化に向けた検討を実施中

■ うみなかたびの推進

公園・地域が一体となった旅のプロモーションにより世界中から観光客が訪れている

webサイトを設置し、運用中
地域と連携したスタンプラリーの実施 等

■ ボランティアの活躍

アクティブシニアが特技を活かしたボランティアで活動している

■ 自然への窓口となる学びの充実

自然を保護するとともに子どもから大人まで水族館で知的好奇心を満たしている

野外観察会や移動水族館教室等を実施

■ 施設間の連携の促進

水族館での結婚式など各施設が連携した海の中道ならではのサービスを楽しんでいる

ドルフィンセレモニー(ホテル-水族館)、クルージング体験(管理センター-水族館)等の実施

■ 園内交通の充実

園内バス路線の拡大等により公園全体を円滑に移動できている

施設の集約再編、園内交通の見直しに向けた計画を整理中

■ 飲食施設の充実

きれいな花修景等を見ながら飲食を楽しんでいる

飲食物販施設の設置に向けた検討を実施中

■ 海の中道駅口ゲートのリニューアル

バス・電車の待ち時間も快適に過ごしている災害時に電車が止まった際の避難場所としても活用できる

ゲート建物の検討、設計を実施中

■ 多様な人がスポーツできる環境の充実

高齢者から障がい者まで多様な人がテニスに親しんでいる

■ マリンレジャーの充実

多様なマリンスポーツを楽しんでいる

・次年度以降のマリンスポーツメニューが拡大できるようダイビングショップとの協議を実施中

着手済の取組

今後着手予定

海の中道駅口周辺の再整備

- 海の中道駅口周辺及びゲートについて、園内関係者や九州大学の学生(約30名)の意見、提案をもとに再整備の設計中。
- 海外でも評価の高い日本の伝統文化である「折紙」をメインコンテンツとし、テーマ性を持たせた場所として再整備することで、以下のような効果を期待。
 - ・国内外を対象とした観光スポットとしての魅力強化
 - ・関連イベント(折り方教室、紙飛行機大会等)の展開による賑わい創出
 - ・関連グッズ(オリジナル折紙、ペーパークラフト等)の販売による収益強化

園内関係者での検討(利用促進・サービス向上部会、施設保全部会)



九州大学学生の演習課題の発表



[主な意見]

- ・立体花壇を一つに集約した方が良い。フォトスポットとしてはシンプルな背景でもよい
- ・イベント用機器、スペースがあると使い勝手が良い
- ・ターゲットを中学生以上、外国人に特化
- ・結婚式の撮りで使いたいと思える場所への工夫(和装にあう風景、洋装にあう風景)
- ・福岡ゆかりの折紙作家(フチモトムネジ氏、川崎敏和氏等)とのコラボ

ゲート内外広場エリア“和風折り紙ガーデン”平面図



南側エリア“洋風折り紙ガーデン”平面図



海の中道駅口ゲートへの飲食・物販施設の検討

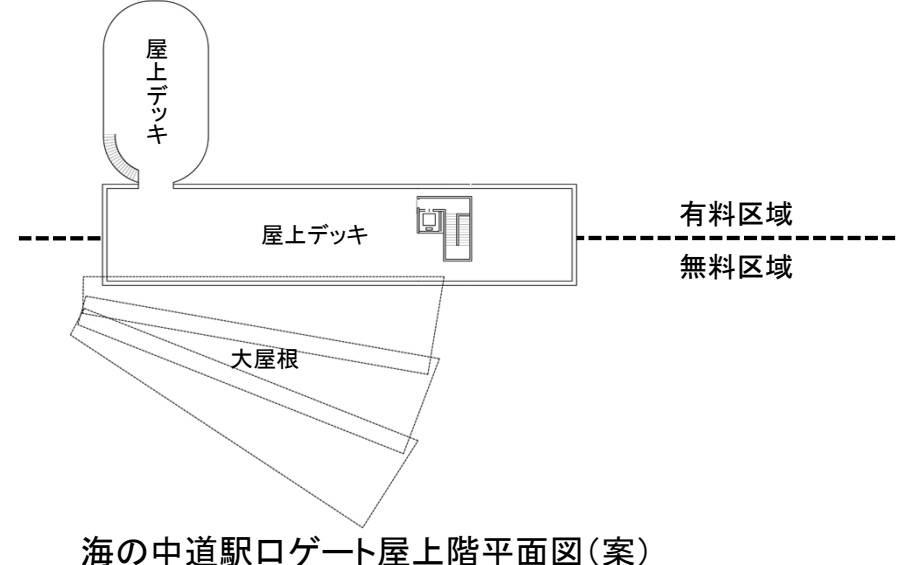
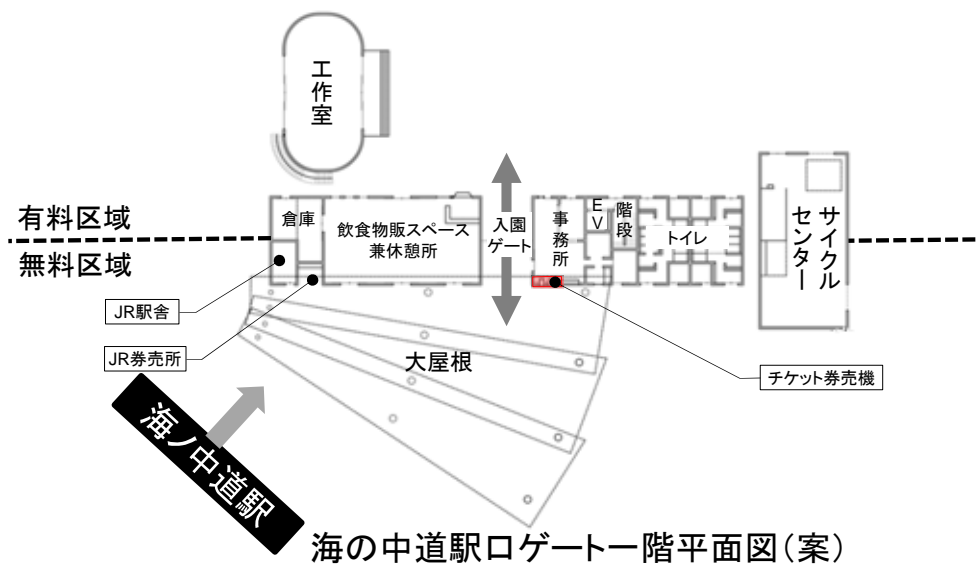
- 海の中道駅口ゲートへの飲食・物販施設の設置を検討するため、民間事業者による事業参入の可能性、参入に当たり必要な条件等のヒアリングを実施した。
- その結果、特に収益性への懸念から**独立採算で飲食・物販施設の設置・運営を行うことについては困難との回答が多く、**場所的にも**公園全体の管理運営の中での売店等として設置することが望ましいのではないか、**という意見が多かった。
- このため、Park-PFI等の事業手法により公募するのではなく、**管理センターの他の飲食施設、売店等と同様の事業手法（収益事業）での設置に向けて検討を進めたい。**

ヒアリング先

- ・園内の関係事業者、デベロッパー、コンビニエンスストア

主な意見

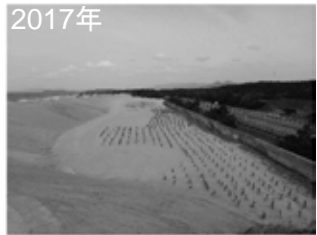
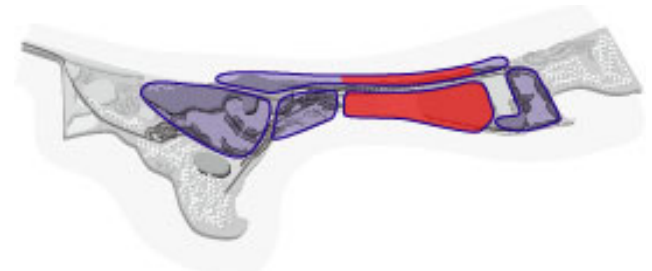
- ・来店者が多く見込めない閉鎖的な商圈での出店は難しい。
- ・通年での営業は困難。季節の良い時期の土日限定であれば可能性はあるかもしれない。
- ・この場所単体で収支を考えるとより、公園運営との関係が深い場所、公園全体で考えた方が望ましい場所という印象。
- ・有料区域・無料区域両方の利用者が利用できるような店舗であることが必須。



③環境との共生エリア(B・D地区)・④白砂青松を継承する自然との共生の場(D地区)

今年度末のPark-PFI事業開始に向けて整備中
(R3年度の主な取組内容)

- 滞在型レクリエーション拠点の整備(Park-PFI事業者)
- トイレ、ゲート棟等の長寿命化対策



マツ植林の状況(第1回協議会で質問のあった場所)

■マツ林の保全
松くい虫対策や間伐等によりマツ林が保全されている

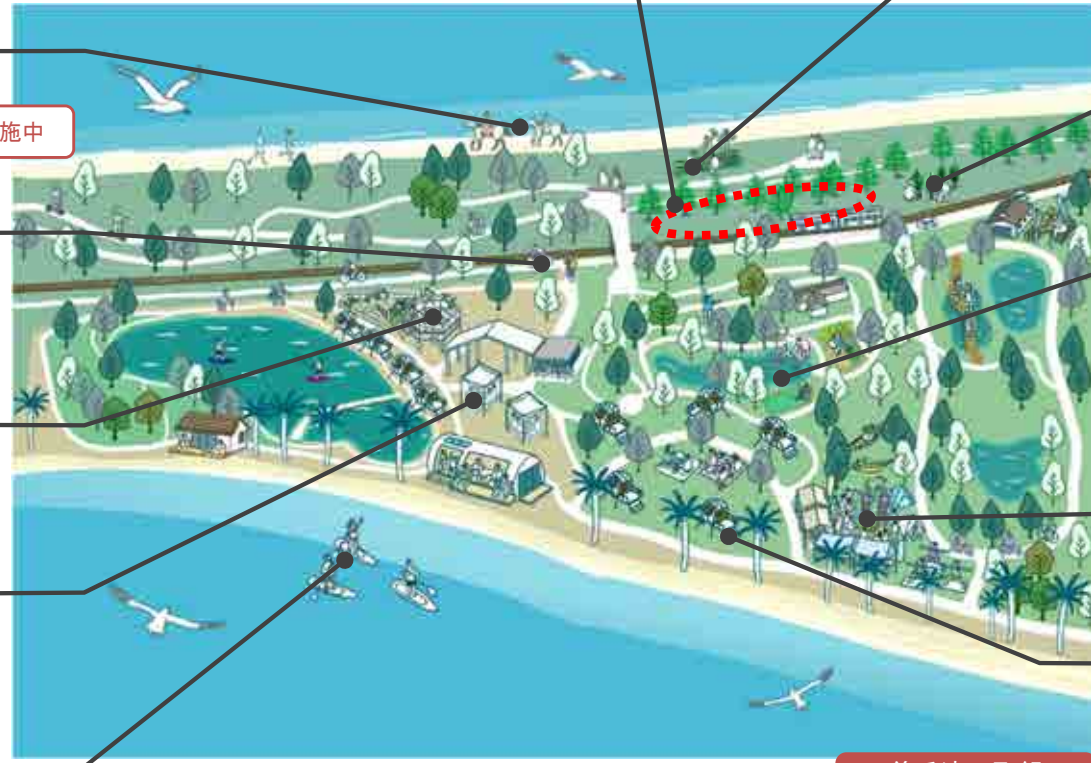
■海浜レクリエーションの充実
ホースライディングやビーチランなど砂浜をつかったアクティビティを楽しんでいる
各アクティビティ事業者と詳細協議を実施中

■公園を拠点とした地域観光の推進
公園への宿泊と志賀島でのサイクリングや自然体験などをセットにしたツアーを楽しんでいる

■立体アスレチックの設置・運営
休日だけでなく平日も遊びながら学べる企業の研修の場等として大人でにぎわっている
運営計画の立案、施設施工中

■地産地消の推進
自ら収穫した食べ物や地場産品を使ったバーベキューを楽しんでいる
地元の事業者と詳細を協議中

■マリンアクティビティの充実
SUPなど海を使った新たなアクティビティを楽しんでいる
各アクティビティ事業者と詳細協議を実施中



■環境学習の充実
豊かな森や水辺での生き物観察等により自然の大切さを学んでいる
水辺のいきもの観察会、森の池での利活用プログラム等を実施

■ボランティアによる主体的な活動
ボランティアが生き生きと活動している

■自然環境の保護
希少生物が保護され、生態系がより多様になっている
環境共生の森ビオトープへの水生植物の移植等を実施

■地域と連携したイベント等の開催
地域と連携したマルシェでにぎわっている
地元の事業者と詳細を協議中

■新しい宿泊施設の設置・運営
テントから博多湾越しの夜景を楽しんでいる
運営計画の立案、施設施工中

着手済の取組
今後着手予定

⑤未開園区域(A・B地区)

(R3年度の主な取組内容)

●A・B地区未開園区域の整備計画を検討するための基礎資料となる環境調査を実施中。(来年度も引き続き調査予定)



■白砂青松の景観の形成

海の中道固有の自然環境、景観が保全されている

B地区未供用区域の環境調査を実施中

■海を見ながら憩う場の提供

喧騒から離れ、のんびり海を見ながら過ごしている

■ランニングコースの整備

海辺のランニングコースで気持ちよく走っている

■市民の運動拠点

市民の日常的な各種スポーツの場としてにぎわっている

■海を感じるレクリエーションの提供

ビーチヨガやビーチバレーなど砂浜を使ったレクリエーションを楽しんでいる

着手済の取組

今後着手予定